

図書委員の運営で、読書の楽しみを分かち合える図書行事ができました。 校内ビブリオバトル 開催 9月9日(火)

荒川区では、平成30年5月の「読書を愛するまち・あらかわ」宣言に基づき、子どもたちの豊かな心を育むため、子どもたちが素敵な本と出会い、読書の大切さや楽しさを実感できるよう、読書活動を推進しています。さらに、令和2年度からは、子どもたちはもちろん、保護者も含め家族みんなで読書に親しんでいただこうと、「家読（うちどく）」事業を推進しています。八幡中としても、『授業活用や読書啓発活動により、学校図書館活用を推進することで、学習意欲の向上を図る』を、学校経営方針の5つの柱の一つに掲げ、本に触れる機会の充実を図っています。

そうしたなか、今回、図書委員が運営の中心となって、「校内ビブリオバトル」を開催しました。「ビブリオバトル（書評合戦）」とは、“バトル”と呼ばれる発表者が自分のおすすめの本を紹介、それを聞いている会場の観覧者“オーディエンス”が一番読みたいと思った本に投票し“チャンプ本”を決める というイベントです。八幡中としては昨年度に引き続き2回目の開催です。



9月9日(火)の放課後、図書委員が運営を兼ね、今年は希望者も参加しオーディエンスとなり、各学年から代表生徒2名、総勢6名のバトルによる熱い戦いが繰り広げられました。バトルはそれぞれ自分のお気に入りの本について、その魅力が伝わるように工夫しながら語ってくれ、どの本にも興味が湧きました。AB2つのグループに分かれ予選を行い、それぞれのグループで勝ち残った2名による決勝を行いました。



その結果、大野晴菜さんが紹介した「そして、バトンは渡された」がチャンプ本に選ばれました。おめでとうございます。大野さんは、12月14日(日)に行われる「全国中学ビブリオバトル東京大会」に学校代表として参加する予定です。

こうした機会を通して、読書や発表活動に興味や関心をもつきっかけになってくれるといいなと思います。八幡中の文化的な楽しみを味わえる図書行事となりました。

